

『坂の上の雲』は、近代という新たな時代を開拓していった人間たちの物語。
夢に向かって精一杯生き抜いていった明治人たちの生き方をお手本に、
21世紀を生きる松山市民が、
ふるさと松山を舞台に、まちづくりという物語を紡いでいます。



主人公たちが産声をあげた城下町松山の中心地。松山市のシンボル松山城を背に主人公たちの生家跡や遊び場所、学校跡などが点在。汽笛を響かせながら坊っちゃん列車が走り、情緒ある県都として賑わっています。各サブセンターゾーンへもここからスタート。

[松山城周辺→P12]

子規、漱石も通った道後温泉は、明治情緒が漂う日本最古といわれる名湯。周辺には子規記念博物館や、ロシア兵捕虜たちを供養するロシア兵墓地など小説ゆかりの地のほか、河野水軍の居城湯築城跡や石手寺、一遍上人誕生地の宝厳寺などの史跡も。

[道後温泉周辺→P18]



久谷・砥部
サブセンターゾーン



河野水軍のふるさと。高縄寺や善応寺、鹿島など河野家ゆかりの史跡や勇壮な祭りからは往時がしのべれます。
ブナの原生林が広がる高縄山は、瀬戸内海が一望できる自然散策ゾーンとして、海辺はリゾートとスポーツのゾーンとして人気です。

風早
サブセンターゾーン



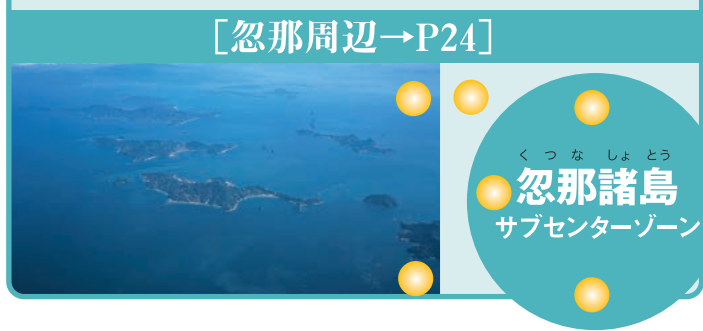
松山城周辺
センターゾーン

松山郊外の里山ゾーン。昔ながらの遍路道に沿って四国霊場の札所をはじめ、遍路墓や石の道標、八ツ塚群集古墳など遍路遺跡が点在します。
地元住民の手により、旧遍路宿坂本屋のほか、大正時代の大黒座も芝居小屋としてよみがえり、遍路の里として注目されています。

[久谷・砥部周辺→P30]

有人島9島を含む30以上の島々からなる忽那諸島。春は柑橘の花の甘酸っぱい香り、夏は太陽と海と白い砂、秋は個性的で悠久の歴史漂う祭り、冬は黄金色に染まるみかんと、四季折々に訪れる人を魅了します。一年を通して釣り人を楽しませる魚介類も見逃せません。

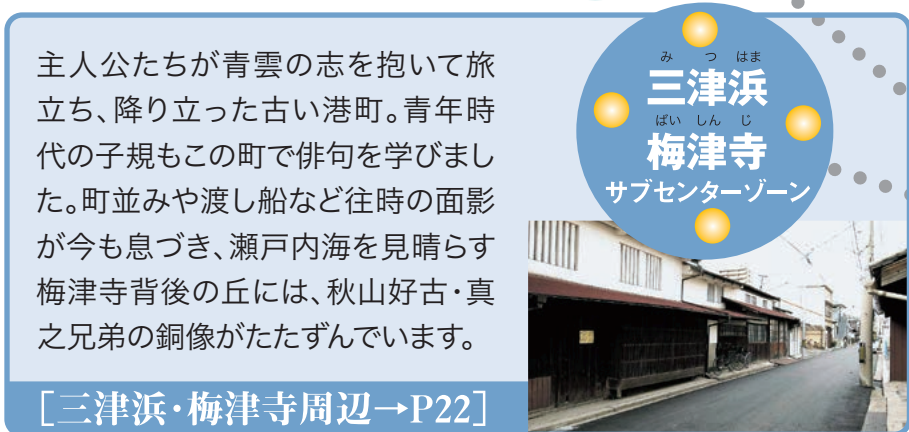
忽那諸島
サブセンターゾーン



主人公たちが青雲の志を抱いて旅立ち、降り立った古い港町。青年時代の子規もこの町で俳句を学びました。町並みや渡し船など往時の面影が今も息づき、瀬戸内海を見晴らす梅津寺背後の丘には、秋山好古・真之兄弟の銅像がたたずんでいます。

三津浜 梅津寺
サブセンターゾーン

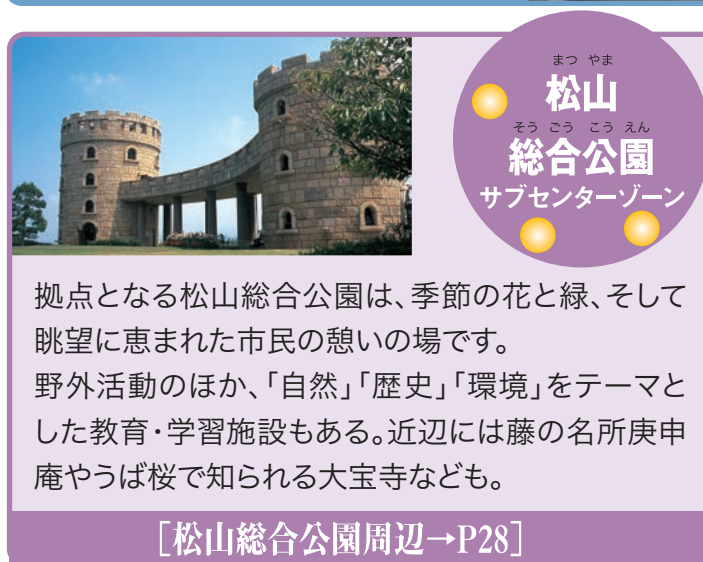
[三津浜・梅津寺周辺→P22]



松山
総合公園
サブセンターゾーン

拠点となる松山総合公園は、季節の花と緑、そして眺望に恵まれた市民の憩いの場です。
野外活動のほか、「自然」「歴史」「環境」をテーマとした教育・学習施設もある。近辺には藤の名所庚申庵やうば桜で知られる大宝寺なども。

[松山総合公園周辺→P28]




旧藩主の育英団体「常盤会」と秋山真之たちが作った「松山同郷会」が一緒になった(公財)常盤同郷会が、全国1万人からの寄付金をもとに、秋山兄弟の生誕地に生家を復元、兄弟の銅像も建立されました。

●秋山兄弟生誕地



松山市では、『坂の上の雲』の舞台にふさわしい雲をイメージした形の新ナンバープレートを平成19年7月に全国で初めて導入しました。従来の長方形のナンバープレートを雲形のものに交換することも可能です。

●雲形ナンバープレート



『坂の上の雲』のまち松山を全国にPRするため、広く市民に呼びかけ、応募作品の中から男子高校生の作品が選ばれました。文学者子規をイメージした筆と雲をモチーフにしたデザインです。

●シンボルマーク



地域の歴史的・文化的な資源(地域の宝)の保存・活用・継承等を目的に、住民が主体となって行う解説板や案内サインの設置、アクセス整備等に対し支援を行う「地域の宝みがきサポート事業」を実施しています。

●地域の宝みがきサポート事業



「愛媛サイクリングの日」に合わせ、フィールドミュージアム構想の各ゾーンに点在する、小説『坂の上の雲』ゆかりの地をはじめとする魅力ある地域資源を活用したサイクルロゲイニング大会を実施しています。

●サイクルロゲイニング大会



『坂の上の雲』に登場する明治の青年たちの志を学び、ゆかりの地や地域の貴重な資源を訪ね歩きながら郷土の歴史・風土・文化を再認識するため、毎年市内でふるさとウォークを実施しています。

●ふるさとウォーク